

江戸川乱歩は生涯に46回の引越しをしたというが、試みに私自身の引越し回数を数えてみたら13回。遠く乱歩には及ばなかった。それでも、今までに横浜、茂原（千葉県）、東京、モントリオール（カナダ）、三浦（神奈川県）、西宮、神戸と転々としてきた経験から、街について、いろいろと思うことはある。例えば街のサイズについて……

小中高校時代を過ごした千葉県茂原市の人口は当時約七万人。知っている人に会わないで終わる一日というのはあり得ず、よい噂も悪い噂もあつという間に広がった。街には映画館もまともなホールもなく、映画やコンサートに行くにも、本やレコードを買いに行くにも、千葉市まで電車で約四十分間揺られる必要があつた。

逆に大学時代を過ごした東京には何でもあつた。ただ、東京の人の多さは適量をオーバーしていると思う。ことに最近、こちらが神戸暮らしに慣れてしまったためかもしれないが、尋常とは思えない。書店に行ってみれば、書棚の前には二重三重に人だかりがあつて、本を手取ることをさえ自由にできない。なんとかかして手にした本をレジに持っていく

と、今度は二十人ほどの行列ができていたりする。ちよつと気の利いた店で食事しようと思いたつても、席が空いていることはまずないし、席があつても店内はぎゅうぎゅう詰め。服を買おうと店に入ると、試着室前にも行列があつて思うように買いたい物もできない。どつと疲れてカフェに入ろうとしたら二時間待ち……

そこで神戸、である。確かに転居した当時は古書店や図書館、ミニシネマ等々といった文化施設の数と量の乏しさに驚かされ、文化系学者のはしくれとしては、早く関東に戻らなくては大変だと思わされたものだ。が、インターネット環境が整ってきた今となっては、新書も古書も自由に買えるし、ネット通販やオークションのおかげで、人気商品も珍品も全国最安値で買うことができるようになった。もちろんそれで東京との差がゼロになつたというわけではないにせよ、今では地方都市に住むアメリカより、明らかにメリットの方が大きくなつてきていると思う。

例えば、三宮を歩いてみると、必要なものはほとんど「歩き」のみで手に入る。社ものものがよく揃っているA店と、x社のもものが揃っているB店……神戸だったら歩いてA店とB店の両方に行ける。所要時間も十五

分。駐車場も街の中にあつて、土日でもそれほど待たされることはないし、料金も安い。カフェやレストランの数や味、バラエティもまずまずだし、ルミナリエの時以外なら、たいてい数席は空きがある。そんな店のスタツフに、たまにアルバイト中の学生がいたり、卒業生がいたりして、社員割引をしてもらえることもある。そういう機会は多すぎるとかえつて窮屈なものだが、全くなないと、これもまた味気ない。動物園や水族園、博物館も規模は小さいながらしつかりと揃つていて、ビルに埋もれているわけでも、かといって電車や車で一時間以上もかかるような郊外にあるわけでもない。

つまり神戸という街は、現代に生きる人間にとつて、ちよつとよいサイズの街なのだ。もちろん、もっと街の規模が大きくなれば、より活力のある、より刺激的で、より魅力のある街になる可能性もないわけではない。ただ、現在享受できている住みやすさと引き替えにしてまで、それらを手に入れる価値があるとは、私にはどうにも思えないのである。